

植物多様性センターの「初冬のタイ類」

雑木林の林床が明るくなると、その足元に蘚類やタイ類などのコケの仲間が目立つようになります。蘚類は雨の少ない冬の太平洋岸では、春になるまで、チリチリになって縮れてしまいがちですが、ゼニゴケなどの仲間、地面に張り付いて成長する葉状体をもつタイ類は、真冬でも生育が旺盛です。この時期、学習園内で見られる代表的なタイ類をご紹介します。



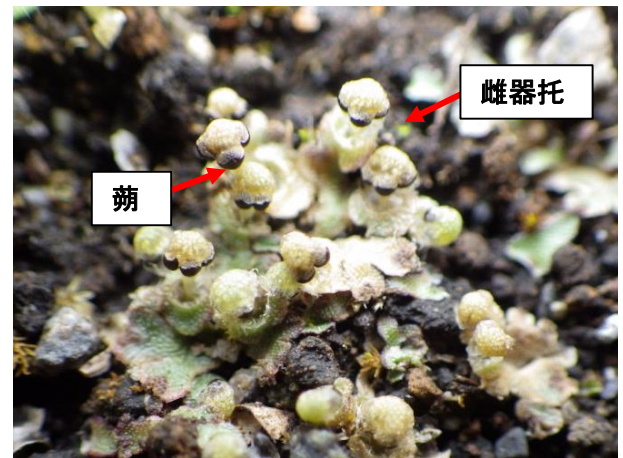
ヒメジャゴケ: 流れ脇の園路に無性芽をつけた黄緑の葉状体



ジンガサゴケ: 流れ脇の園路の柵近くに雌雄異株の葉状体



フタバネゼニゴケ: 奥多摩ゾーンカツラの下に大きな群落



ミヤコゼニゴケ: 伊豆諸島ゾーンの裸地上に孢子体を形成